

研究タイトル：

英国詩人 John Keats に関する研究



氏名：	石川 源一 / ISHIKAWA Genichi	E-mail：	ishikawa@ube-k.ac.jp
職名：	講師	学位：	修士(文学)
所属学会・協会：	日本英文学会, 九州・山口イギリス・ロマン派文学研究会 イギリス・ロマン派学会, まなびのコミュニティ協会会員		
キーワード：	英文学, 英詩, ロマン派文学, John Keats, 英語教育		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文学に関する分野 ・英語教育に関する分野 ・ビジネス英語、専門英語に関する分野 		

研究内容： 詩人 John Keats の詩人的価値の追求、実践的な英語教育

イギリス文学ロマン派文学とは、イギリス文化史において非常に重要な時期であり、それまでの「理性的、合理的」な時代へのアンチテーゼのように感受性に重きを置きながら芸術が隆盛した稀有な時代の文学と言える。私はその中でも 19 世紀前後に活躍し、26 歳という若さでこの世を去った天才詩人 John Keats の研究を主としている。

詩人 John Keats とは、外科医を目指し勉学に励む中で家族や患者の死を見つめ、肉体を救うことができない絶望感から精神を救いたいと強い願いを持ち詩作を始めた若き男性である。彼は鬱病や結核に心身を蝕まれ 26 歳でその生涯を終えてしまう。しかしながら若くして詩の技巧面で才能を発揮した彼は詩を作る際に「ネガティブケイパビリティ」という考え方を強く意識していた。それはシェイクスピアが常に意識していた「事物を半知半解の状態に留めておき、敢えて答えを出さない状態」を維持するというものだ。これはすべてに明確な答えを求める現代の社会的、文化的側面において、敢えて意識すべきものであると私は考える。

詩人 John Keats のネガティブケイパビリティを通して見ていた現実世界と空想の世界、詩作をする際熟考の末に言葉を選び紡ぎ出す能力の源泉となったものは何か、ロマン主義が自然主義へと変遷していく過程を解き明かすことに尽力している。ひいては文学を通して人間を学び、観念的な美がもたらす人間の精神世界への影響や、その結果として生み出される芸術への深い理解を生涯の目標と掲げ、詩全体を通して語られる世界観や一貫性を持たない詩人の感情を汲み取るような研究を行う。

英語教育に関する分野では、授業内外においてインターネットコンテンツ、特に twitter のような SNS を活用し発信型の英語力の育成に尽力している。加えて各学生のスマートフォンを活用し、授業時間内に海外のショッピングサイトを閲覧しながら、既存の教科書には登場しない生活の中で用いられる英語表現を学生自身の目で直接確認させる事を重視している。

学生自身が問題を提起し、その問題解決に繋がるプロセスを論理的に分析する能力と社会貢献の精神を育むことを目標としながら、アクティブラーニングやスマートフォンを活用するなど現代的なアプローチを用いて英語の各技能を向上させる発信型の英語作成能力と、英語を用いたコミュニケーション能力の育成を重視し、社会的即戦力となる人材育成を行っている。

日本国内外で活躍できる人材には批判的思考力と論理的思考力が必要であると私自身が考えているため、他者との相互理解を土台にして学生の自己犠牲、奉仕の精神を育むことが重要だという考えに基づき、積極的にグループワークなどの手法を活用しながら自律的な英語学習者の育成を目指す。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	